

(その他) 北中学校 3年

東日本大震災復興・支援プロジェクト ～自分たちにできることは～

7月～11月(14時間)

1 はじめに

昨年の3月11日に起こった東日本大震災。日本に起こった大きな悲しみに対して、何か自分たちにもできることはないか。人ごとに済まらず、自分たちにも何か支援できることはあるはず。生徒自ら考え、多くの人たちと協力し、支援を実行していく。3年生全体の取り組みである。

2 実践の概要

(1) 自分たちにできることは?～クラスごとに話し合い～(7月6日)

3月の東日本大震災から約4カ月、その当時の緊迫感を伝えるために、NHKスペシャル「果てなき苦闘 巨大津波 医師たちの記録」の一部を学年で視聴し、7月6日の被害者数などの説明をした。

その後、各学級で、自分たちにできることは何か話し合っていく。節電・節水など、すぐにでも実行できることを挙げた意見の他に、支援物資を送る、手紙などの心の交流という意見があった。その中で、「たくさんの方が被災されたが、自分たちと同じ中学生を元気づけたい」という意見に多くの生徒が賛同した。そして、実際に支援を行う上で、調べたり、検討したりする点が多いことに生徒たちは気づいた。そこで、夏休みに各自支援実行のための調べ学習を行うことにした。

(2) やらなければいけないことは～支援実行のための流れ クラス案作成～(9月28日)

各学級で、夏休みに考えた支援の実行のための具体的な流れを一人一人報告した。生徒は発表者の内容がどのような支援になるか分類しながら、発表内容と話し方について3段階評価をつけることにした。そして、報告会で挙げた支援実行のための具体的な流れを話し合いによってクラス案としてまとめた。

このプロジェクトを計画する段階で、現地に行き、現地の状況を知り、被災された方の思いにふれ、継続的に支援活動を行いたいと考えた。その中、1組の1学期の話し合いで、支援物資を送ることと、被災地の中学校との交流が意見として挙げた。そこで、被災地の中で、最も被害者数が多かった宮城県石巻市の中学校と交渉した。その結果、石巻市立湊中学校に交流を引き受けてもらうこととなった。

(3) やらなければいけないことは～クラス案「報告会」～(10月4日)

学年集会で、各クラス案を報告する前に、被災地に実際に行った生徒にその時の感想を作文にして発表してもらった。また、この会に、支援活動を何度も体験されているフットジョグ土赤光宏店長さんを講師としてお招きし、今回のクラス案(資料1)についての率直な意見をお伺いすることにした。

資料1 クラス案と修正案

クラス	提案内容	土赤さんのアドバイスを受け、支援活動の各クラスの担当を決定
1組	・ベルマーク・アルミ缶回収→物資・お金に ・ビデオレター ・東北へ行く!!→ボランティア →湊中とレク交流	・ベルマーク・アルミ缶回収→湊中の必要な物資を発注・購入
2組	・施設をつくるための募金 ・学校に足りないものと衣類を送る(中学生に)	・募金活動 →湊中の必要な物資を発注・購入
3組	・支援物資(募金で)	
4組	・募金 ・支援物資 ・現地での交流	・交流(メッセージボード)
5組	・バザーで義援金を持っていく	・バザーで支援金を持っていく
6組	・東北の素材を使った郷土料理を作り、北中祭で販売する活動 →義援金 →想像以上の収益なら、現地で避難所の方々などに料理を食べてもらう	・東北の素材を使った郷土料理を作り、北中祭で販売する活動 →支援金

土赤さんのお話では、被災者への支援物資は、被災者に必要な物が何か聞き、さらに被災地の経済効果も上げるために、被災地で購入するとよいとアドバイスももらった。また、被災地に行き、中学生と交流することは喜ばれると交流について前向きなコメントをいただいた。現地のボランティアでどのようなことが行われているのかも教えていただいた。

(4) 自分たちにできること 実行！ ～支援準備 北中祭に向けて～ (10月12日～11月3日)

各クラスで今回のプロジェクトを中心となって行う実行委員を募集し、実行委員会を立ち上げた。そして、学年集会を開き、土赤さんのお話を受け、提案内容を修正し、実行に向けての決意を発表した。(資料1) 今回のプロジェクトに賛同し、協力していただくことになった岡崎ロータリークラブさんにも今回の会に参加していただいた。

また、すでに現地に行き、支援活動を行ったことのある岡崎商業高校に出前授業をお願いし、現地に行き、実感したことや支援の様子などについて、分かりやすく教えていただいた。

支援活動第1回期限を北中祭とし、総合の時間だけでなく、放課後などの時間を利用し、各クラス準備を進めていった。(資料2)

資料2 給食の牛乳パックによるベルマーク回収



資料3 北中祭での取り組み (バザー・いものこ汁)

北中祭当日は全校生徒や保護者の協力でも、大きな成果をあげることができた。(資料3)

3 終わりに

11月19日、20日に、実行委員から代表8名が石巻市立湊中学校と交流を行った。その際に、北中祭までの成果を手渡した。また、被災地や仮設住宅も訪問した。(資料4)

生徒たちは、被害状況や被災者の不自由な生活・膨大な遺品等を目の当たりにし、心を痛めた。また、湊中との交流や仮設訪問で感謝の言葉をたくさんもらい、自分たちが逆に励まされたという思いでいっぱいになった。(資料5) 3年生だけでなく、全校生徒にもこの思いを伝えたい。2学期終業式の日には報告会を行った。全校生徒も30分にわたる報告会を真剣に聞いていた。「この活動を今年限りで終わりにしたくない。来年も引き続き支援活動を行ってほしい。」その切実な思いは、後輩にも伝わったことであろう。

資料4 被災地訪問



資料5 被災地訪問を通して (生徒作文より)

・・・現実はずっと厳しく、残酷なものだった。しかし、現実から目をそらすことはできなかった。ぼろぼろになった校舎。周りを見れば何もなくて、世界でひとりぼっちになったような、そんな気がした。・・・湊中学校の生徒たちは、とても明るく楽しい人たちで、とても“被災者”には見えなかった。私は、彼らの中に被災者の顔を見ることができなかった。しかし、それは被災したからこそなのかも知れない。私たちと同じ中学生だけれども、私たちとは違う体験をし、私たちと違う状況の中で生き抜いているのだ。彼らはとても強く、りりしく、美しかった。今後、どんな困難があっても、生き抜いていけるであろう。